

# 1期生卒業記念

## 都市社会共生学科

### Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

入山 三浦先生は4年生に対してどんな想いを持たれていますか。

三浦 そうですね。4年生のみんなへの想いっていうのは、やっぱり、一緒に都市社会共生学科へ入ってきたという、他の先生はずっと教育人間科学部の人間文化課程の時からここにいたからいいのあると思うけど、一緒に1年生と教室のクーラーの付け方がよく分からないとか、なんか最初の授業とか夏なのにクーラーがつかないみたいなので、なんかみんな卒業しちゃうんだ、俺だけ置いていかれる、みたいな気持ちがありますね。4年生への想いはそういうところがあるなあ。

人ってつらいことを経験したときに、自分がつらかったから周りの人に対して優しくしようと思える人っていると思うんですよ。でもそうじゃない人もいて、つらい状況にあったときに、他人に対して自分より恵まれているなあ、という嫉妬とか妬みになる場合もあると思っていて。それこそ、今コロナの状況って社会がどっちにいくのかな、と思っていて、みんなつらいから助け合おうってなるのか、妬みに走るのか。そういうときに、卒業生の子たちがお互いに支え合う『共生』の方向性に行っていきたいなと思っていますね。

結局道徳論みたいな話だけじゃなくて、社会全体がこれまでの歴史の中で連帯や共生できていた社会の方がやっぱりすごくて、繁栄していった歴史があると思うから。この四年間でそういうものの大切さみたいなのをいろんな形で先生方が教えていたと思うので、みんなも意識はしてないかもしれないけど、多分どっかで表面化した部分があるんじゃないかなって。これから多分ね、相当大変だと思うんですけど、困ってる人を目先ほどの前のこともそうなんですけど、知らない人とかでも困っている人がいるのではないかと想像力を働かせて動いてほしいな、という想いはありますね。喋りがうまくないんですね～ごめんなさい。

入山 なるほど。ありがとうございます。みなさん、先生のお話を聞いていかがでしたか？

澤田 三浦先生っぽいなと思いました。先生いつもそうじゃないですか。遠まわしではなくてストレートに伝えてくれるから、いいなと思いました。

木村 先生が仰っていたことは、まさに学科に入ったから学べたことで、今までプライドで生きてきたけど、格差社会の授業を受けて、ホームレスの人とか貧困のこととかみて、まるで自分の考え方が変わったんですよ。あれ以来、道ばたで困っているひとをみたら、時々話しかけられるようになったし。それだけでは根本的な解決になるとは思っていないけども、その姿勢、行動に移せるほどの強い意識を持てるようになったのは、絶対にリアルを学べたおかげなんですよ。だからそういう部分で、意識を変えてくれたなと思っています。私だけでなく、都社共の子たちって優しい世界で生きてきて、都社共『優しい世界』なんですよ！世の中そうじゃないので、それをこれから変えていきたい、考えていきたいなと思いました。

三浦 これから社会に出たときに、びっくりすることあると思うんだよね。都社共のなかだと、あからさまな女性差別のこととかセクシュアルマイノリティの差別を言わないと思うし、おかしい、と共有していると思うけど、

# 1 期生卒業記念 都市社会共生学科

## Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

社会の中で共有されている部分ではないから、「えっ」ってなることあると思うんだよね。『やさしい世界』から出て行くわけだから。でも、そこでめげないでほしいと思います（笑）

入山 この学科で良かったことはなんですか？

**湯山** 1年生の時に都市基盤学科の研究室の人と一緒に旭川に行ったりして交通計画の地域課題実習の授業にも参加させてもらって、それはそれで凄い本当にいい経験になったんですけど、なんていうか、そこでやっぱり私が疑問に思ったのはそこで実際に生きてる人とか、交通計画とかでもそれに関係してくる『人』の方にやっぱり興味があって。この学科がある意味ってというのは、そういう何か大きな計画とか社会的に何かをやる時に、そこで生きている人たちがどう影響を受けるのか、どういう差別が生まれるのかとかに目を向ける役割がこの学科にはあるのかなって。他の学科を見てもそう思ったし、三浦先生の授業とかすごく印象に残ってるんですけど、やっぱりそういう社会運動とか、ここでこういう対立が起きてるとかそういうのを学ぶことができて、人間に焦点を当てることができたので、やっぱりこの学科で良かったのかなって思いました。

**森田** この学科の特徴としてスタジオ制度があって、3年生までは2つのスタジオに入らなきゃいけないっていうのにみんな結構苦しんだと思う。特に2年生の後半は演習やスタジオの課題に追われてとてもしんどくて。サークルの他の学部の人たち見ると、もうゼミや研究室が決まっているのに、なんで私たちはまだ2つもやってるんだらうってつらかったんですけど、今振り返ればあれはすごく良かったなって思っている。というのもこの学科の専攻は社会系と文化系に大きく分かれていて、でも私は2つのスタジオを取れたからこそ両方の分野に足を突っ込むことができて、社会系とか文化系という垣根を越えて友達ができたと、いろんな人の考えに触れることができたんです。これこそが多様性・共生の実践だと思うし、さらに私の場合は就職活動でもここでの経験が鍵になっていて。下級生やこれから入学してくる人たちの中には、「文化・芸術系の言ってることちょっと分かんないなー」「自分は芸術系にしか興味ない」って思う子もいるかもしれないけど、是非この2つスタジオを選べることを活かして、学問の垣根を越えて友達をつくって視野を広げてほしいなと思います。

**澤田** さっきは芸術家の人わかんないとか言ってごめんなさい（笑）私は森田さんと違ってゴリゴリ社会系で履修していて、芸術系は必修とかでしかとってなくて。その人たちと仲良くなれた感はなかったんですけど、でも森田さんの言っていた、芸術とか土木とか、自分の知らない世界に無理やり突っ込まなきゃいけないっていうのが最初は半泣きだったけど、そういう人がいるんだっていうのを知るきっかけになりました。そういう人たちがいるから回してくれてる部分が世界にあるんだっていうのを理解した上で社会学を使いながら結局は自分の仕事に生かしていかなきゃいけないっていう自覚を持っていたのは、多分専門的なことだけやたらわかんなかったのかもしれないし、全部が机上の空論にならないために、そういう人たちもいるんだとねと。

# 1期生卒業記念

## 都市社会共生学科

### Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

私たちがこんなことやってこんなことで人の心を動かすことができるっていうのを知るだけで違うのかなって。それが出来るのは都社共じゃなきゃダメだったんじゃないかなって思いました。

**柴崎** みんなが居場所を見つけやすい場所かなって思いました。具体的にどういうことかっていうと、いろんな分野に興味関心があるお友達ですよ。お話とか、教授もそうですし。いろんな分野の学問とかに詳しい方がいるので、さっきも話してたと思うんですけど、考え方の多様性とか受け入れる土壌がすごくあるなと思ってたので。また社会系だったり文化系だったりをそれぞれみんな興味があると思うんですけども、何か他の学部に行ったらちょっと省かれてしまうようなアウトローな人達だったり、世間に対してすごく疑問だったりとか不安だったりとか感じて人がそれぞれの居場所を見つけやすいかなって思いました。

**並木** 僕も大学で学ぶようになってから、視野が広がったなと思っていて。例えば今、川崎市ふれあい館という場所で、経済的・社会的な課題を抱える世帯の中学生の学習サポート活動に参加しているのは、格差や貧困といった社会問題について、学科の講義で学んだことがきっかけです。社会学や人類学を専攻し、社会問題と呼ばれる事象に理論と実践の両面からアプローチする姿勢を学べたことが、この学科に入ってよかったことだと思います。

**木村** 私は最初（学科に対して）アンチだったんですよ（笑）1年生の頃アンチ過ぎて、でも今は本当にここで良かったなと思っていて。もともと理系がやりたくて、人文社会は趣味の領域だと思っていたんですよ。でもなんか、「これ全人類がやらなきゃいけない基礎的な学問だな」と入学してから気付いたんですよ。ジェンダーのことや格差社会のことを知らずに生きるなんてありえないですよ。これって高校生までの学校で習えていなかったの、ここで知らなかったらやばい、浅はかな考えしか出来ない人間になっていたと思うんですよ。これは就活や長期インターンでビジネスのことをしていても感じていて、リベラルアーツ（人文科学）の視点がないせいで、浅はかな考え方ややり方でプロジェクトを進める方もいて。都社共って、大学で留まっていけないものではないなと思っています。間違いなく、私は人生のうちここ（都市社会共生学科）に入れて良かったと思っています。

**三浦** なんかそういうリベラルアーツ的なものってどんどん失われてきて、どんどん1年から専門家されてきてしまっているんだよね。一方でここは4年間いろんなことをやれるっていうのが特徴的だなと思っていて。社会的なことと芸術的なことを両方できるところってあまりないと思うんですよ。だからこそ、最初は決め打ちしないでもらいたくて、芸術に興味があると思っていても幅広く見た方が芸術の領域でも広がりが出ると思うんだよね。森田さんのとかは特に社会系と芸術系が融合した卒論で波紋を呼んでいたよね（笑）別に融合しなくても良くて、でもあれもたぶん彦江先生の学びがどこか影響しているところがあったんじゃないかなと思ったよね。いろいろな学びができるのはいいところなんじゃないかなって思いました。『伸び』がえぐいんだよね。学生の質が、日本の中でも良くて、すごく教えがいがある。

# 1期生卒業記念 都市社会共生学科 Interview ～Long ver～

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

澤田 治安良いですね（笑）

—ここからは4年間の授業を振り返っていただきました。

入山 学部の必修科目であった「都市科学 ABC」の授業はどうでしたか？

森田 ABCはほぼ毎回の冒頭で、前回の講義で提出された感想のなかから優秀なものをいくつか紹介していて、私は結構それがモチベーションになっていました。他の学科の子はどのような考え方をしているのか、何を書いているのか知れたのが面白かったな。

木村 あのレポート、雑に書くほど紹介されるんですよ。気合い入れていける！って思ったものに限って紹介されなかったり。自然に出るようなふとした発想の方が意外と評価されるのかなって思いました。

入山 他に印象に残った授業はなんですか？

柴崎 映画塾！

入山 あれは映画をつくる授業だったんですか？

柴崎 そうです。授業ではなかったけど、映画監督を呼んで、シナリオから脚本からロケ班から自分たちでやる地獄のようなプロジェクトです。

三浦 あれすごいよかったよね。

木村 まなほ（※柴崎）くんはどうして映画塾に？

柴崎 みんなやるっていうから、流れに乗って参加したら、とんでもないことになりましたね。

木村 私も面白そうだなと思って途中から参加して、最初仲良くできるか不安だったんですけどみんな感動的にいい人で。自分とは興味関心とか、見てきたものが違うはずなのにすごくよく交流してくれて、楽しかったです。

澤田 接点がなくとも、学部違う人とかいろいろな人巻き込んで映画作ってたよね（笑）



# 1期生卒業記念

## 都市社会共生学科

### Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

**森田** あの頃は右も左もわからなかったけど、今になってみるとボとかも一緒にやりたかったなと思っちゃう。今なら、もっと頑張れたなと思っていて、十分充実はしていたけど後悔もあるんだよね。そういう後悔もあるけれど、今そう思えるってことは、あの頃よりちょっとは成長できたのかなってような気持ちもあります。

**湯山** ファビアン先生の授業！社会映像論講義が面白かったです。

**森田** 3年生になってからあの授業をとって、（当時の）2年生と一緒に授業を受けてたんだけど、2年生こわい！って思った（笑）

**澤田** そう、（今の）3年生は洗練された感じがある（笑）

**入山** 先生は、学科のカラーや学年によって違った雰囲気を感じたりしますか？

**三浦** 学年によって全然違うね。4年生は本当におとなしいイメージがある。あまり外に出さない感じ。最後の1年間は、他の先生も言ってらっしゃるんですけど、卒論に向けてスゴイ伸びたと思ってて、なにくそと思しながらも素直に頑張っていたからだと思う。逆に3年生はすごくうるさくて、2年生は4年生と似ていて静かでおとなしい感じ。学科のカラーもあるけど、学年によっても全然カラーが違うなあと感じるね。

**澤田** グループワークしなきゃいけないときとか、私が前に立って発表させられている時とか、すごく頷きながら聞いてくれる人が多くて、優しい人が多い気がする。自分と立場の違う人に対して違う意見を持っていても傷つけない人が多くて、知らないこととかを悪いとしないで受け入れてくれるのがすごく平和な学科だなあと思いました。

**入山** 演習の授業はどうでしたか？

**澤田** 演習でしごき倒されたから卒論や今の仕事も決めどころがある。2年生の秋しんどくなかった？

**森田** しんどかった。三浦先生の演習なんて、先生と学生どっちが倒れるか問題あったよね（笑）

**澤田** 個人的な感想だけど、それで目指す方向性が決まったのはあります。自分の考えをA41枚にまとめる作業もそうだし。みんなが同じ本を読んでその内容をまとめる演習があったんですけど、作業を通して相手にどれだけ必要なところだけを伝えるかとか、いろんなところを抽出するかとか、あとそれぞれが持ち寄ったものをどうやって相手を否定しないで批判するかとか、どうやって自分の主張を出したり、あるいは周りに合わせて変えることも必要だったりとか、知識だけではなくて「議論のやり方」を教えてもらったと思っています。

# 1期生卒業記念 都市社会共生学科 Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

最終的に、演習頑張れたから卒論も頑張れたと思うし、もらったプリントはかなり卒論でも使いました。だからみんな演習頑張ってねって後輩に伝えたいです。

**三浦** 英語にしたりして演習の人数減らそうと思ったけど、減らなかったんですね。結局 30 人くらいになってしまった。なんで演習の人数減らないんですかね？

**木村** 履修しなきゃいけない演習の数が多いですよね。カリキュラム問題がある（笑）演習でデスマッチやった記憶ないもん（笑）

**入山** 結構先生によって演習の内容違うところありますよね。

**澤田** 彦江先生の授業が結構大変だった。自分の意見を聞かれて話したけど、違うよって言われたのをすごい覚えてる。

**森田** やっぱゴールが決まっているんだなって思った。でもそういうものなんだと思うの、今思えば。でも、あの時は、小説批評の授業って、もともと「こつも読めるけどこつも読めるよね」っていう感じだと思ってた。だけど、最後には先生がゴールを示してくれて、そこに（自分の考えとの）ギャップがあったんだなと思った。

**木村** スタジオ選択にも関係すると思うんですけど、先生によって結論を出す・出さない問題ってあると思うんですよ。社会学でも吉原先生とか、学生の論を巻き込んで返すというよりはもともと持っていらっしやるものを崩さずに進められる方もいる。

**三浦** 弁証法的な感じになるよね。

**木村** そうですね。樽沼先生とか特に弁証法感ありましたね。

**入山** みなさんはどうやってスタジオを選びましたか？

**柴崎** 僕は直感的に選んだ感じ。彦江先生は割と他の口癖があって、「オルタナティブを探せ」ってよく言うんですよ。なんかいつも偏った見方もしないけど、そういう見方もあるんだ、というのを提示してくれるのが自分の中で新鮮だったなあっていうのはあるかな。あとは話が合ったというのはある。先生との相性は大事だと思う。彦江先生のところなんかは割とジャンル問わず卒論書ける。

**澤田** 私は割と1年生のころから「三浦&江原チルドレン」だったから。

# 1期生卒業記念 都市社会共生学科 Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

**湯山** 私も最初から割と「高橋チルドレン」だったから（笑）いろんな先生と出会って、ちがうなあとか合うなあとか分かってすごく良かったと思う。

**入山** 他の先生方とのエピソードもお願いします！

**木村** 鎌原先生！鎌原先生のRの授業で人生変わった感じはある。

**澤田** 戦争の政治学の話聞いたのがすごく印象に残ってて、なんか先生の授業を聴いて高校の講義と全然違うんだなって思った。もちろんある程度は映画を使ったりとか数字を使ったりでリアルを教えてくれつつも、ただある今この事実をどう我々を考えなきゃいけないのか、分析しなきゃいけないのかってところまでやるのがすごく高校と違うなって思って。高校では戦争の授業やったとしても『こんなに被害が出ました。もう二度とこんな戦争を繰り返さないようにしましょう』みたいな終わり方が多かったけど、これだけの数字で戦争を表してこういう経緯があって、戦争ってそもそもこういう歴史があってというようなこと教えてくれて、今現在に至ってるって事実をめちゃめちゃ分析してくれて、「残るはあなた達次第」みたいな感じにしてくれたのが面白かったし高校と違うなって思いました。

**木村** 藤掛先生の授業は、一番インパクトがあった。藤掛先生の授業を聞くと、何かしなきゃ！と思えた。

**湯山** 佐藤峰先生は、親身に卒論の構想に対して、自分の考えを否定しないで優しく指導してくれたから佐藤先生大好きです。

**木村** 齊藤先生は、私の関心に合う文献を選んでくださったのが感動でした。妄想で議論を展開したいタイプだったんですけど、先生は地に足がついた人で、一番「アカデミック」を齊藤先生から感じますね。丁寧に論を展開していく感じ。社会学の先生って感じがして面白かったし、齊藤先生は何かね、すごく人生経験が謎すぎて面白かったです。イギリスの大学院に通いながらメキシコでバイトをする、みたいな（笑）

**木村** あと樽沼先生はね、みんな大好きですよ。

**湯山** 高橋先生は、現地で取材することにこだわっている先生だから、私は記者になるんですけど、将来何になるかも考えられたし、もうすごく「お父さん」みたいな人なんですよ。就活中も元気づけてくれたり、実際に福島に行って困っている人と学生が接して感じ取ったことを文章に起こさせる授業はもっと増えてほしいと思う。もっと自分の関心を周りの人に伝えたいという人が増えたらいいなと思います。

# 1期生卒業記念

## 都市社会共生学科

### Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

**澤田** 三浦先生は、一番生徒のことをよく分かっていらっしゃる先生。学科生みんなの名前と顔とサークルを覚えてくれた。

**森田** 三浦先生を人間的に凄いなって最初感じたのは、2年生の前期の「社会運動論講義」で期末レポートを提出して、その講義を受けていた学生はそのまま秋の演習を受ける人が多くて、その秋の演習の第1回目に前期のレポートについて1人ひとりにフィードバックをおっしゃっていて……まず先生が学科の生徒の顔と名前を覚えていることに衝撃で。さらにその人が前期にどんなレポートを書いているのに対してのアドバイスを全部片っ端から言えるっていうのに深い愛を感じまして(笑) あと、先生は頑張った分だけ褒めてくれるし学生と一緒に藻掻いてくれる人だから、きっとこれから先、卒論に向けても一緒に闘ってくれると信じていました(笑)

**三浦** みんなはさ、レポート書いたら忘れる人多いけどこっちは覚えてるんだよね。

**澤田** 三浦先生の格差の授業は江原先生の裏授業だったんですよ。それで最初は江原先生の授業を受ける人が圧倒的に多かったからすごく人数が少なかったんですけど、その三浦先生の授業がすごく面白くて口コミで2年生の時に三浦先生の授業を履修する人が多かったんですよ。「安心と安全と信頼の三浦」って感じ。それだけ学生のことを知ってくれて、生徒も先生のこと好きっていうのが、大学の先生では珍しいと思う。卒論のときもたくさんお世話になって、本当に進みたい分野問わず、三浦先生のところに行ってみたらいいと思いますよ、みなさん！って感じです。

**森田** 川添先生は教員になられる前に出版社にいた経歴をお持ちで、実際の社会の中で私たちの学びはどのように必要とされていて、どういう風に活かしていかなくちゃいけないかというのを教えてもらいました。3年生になって就職活動と学業を両立させていた時、川添先生はそういう活動に理解を示してくださって応援してくださったことが嬉しく心強かったです。

**澤田** 江原先生は本当に来年退職されるので下の子もつたいないって思う。最初三浦先生がずっとレジェンドレジェンドって言って、何がどうレジェンドが分かんなかったんですけど、やっぱり3年4年でみっちり授業受けたら意味がよくわかる。齊藤先生と同じでゴリゴリ社会学なんですけど、それで終わらなくてめちゃめちゃな量の経験があって、学校の先生でもありながらいろんな会議に出てたりとか、横浜市のジェンダー平等とかに協力して、現実をものすごくちゃんとよく知ってて尚且つアカデミックな基盤がある人だから最強なんですよ。だから「レジェンド」って呼ばれるんだなって理解できました。今の社会の課題を、例えば「ジェンダー平等」と一口に言っても信じられない量の課題があってその課題をどう解決するか、その背景にはこんな問題がとか、貧困もそうだし経済とかもあって歴史があるんだよっていうの全部そらで言えるんですよ。だから先生



# 1期生卒業記念 都市社会共生学科 Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

の授業は私は発言は殆どせずずっと90分聞いてるだけで脳みそもノートもパンパンになるっていうすごい先生なのでなんか本当にもったいないなって思いました。

**三浦** 江原先生の最後の学生の卒論が澤田さんのので良かったと思いますよ。

**澤田** 私にとってすごく光栄でした。

**柴崎** 清田先生は、生徒同士を闘わせようとする癖があって（笑）いい意味で、悪の部分を引き出してくるから、生徒同士がフランクに言いたいことを言うことができていたなと思いますね。最初怖いと思っていたけど話してみたらユーモアがある先生でした。

**三浦** 実は三浦スタジオは清田先生から教えてもらっていた部分があります（笑）

**木村** 小宮先生は、圧倒的に内容はめちゃめちゃ面白いんだけど、それを超えてくるファクションが印象的でした。

**澤田** いろんなところから話を持ってくる先生で、聞いていて飽きない。小宮先生のノートもみっちみちにとっていた気がする。

**湯山** 松本先生の文化人類学はめちゃめちゃ面白くて、「脳死」とか「葬儀」とかテーマがいろいろあってそれについて議論する授業でした。すごい面白かったです。

**木村** 平倉先生は、演劇をやっているって、建築の藤原先生とコラボしていたりしたので、平倉先生がなんだかんだ一番「都市科学部」っぽく学科間での交流をやっていたのが印象です。

**森田** 文化批評スタジオ、2年生の最初に作文のトレーニングがあったんだけど、その時に中川先生がみんなの前で「自分の好きなものをきちんと人に話せないようじゃ駄目」とおっしゃったのがとても印象に残ってる。好きとかってなんか第六感というか感情的な部分も大きいだろうけど、それを言語化したらどうなるのかっていうのを改めて考える機会になりました。

**木村** 趣味だと思っていたけど、それをちゃんと学問に落とし込む力を教えてもらったのが中川先生だったなと思う。

# 1期生卒業記念

## 都市社会共生学科

### Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

**森田** ファビアン先生の演習では、個人で映画をつくったんですよ。私にとっては初めての制作活動で、自分の考えていることを形にするってこんなにおもしろいんだって気づきました。

**澤田** 辻先生好きです！東アジアの授業がめちゃめちゃ面白かった。辻先生も割と生徒のこと覚えてくれている気がしていて。毎回ちっちゃいコメントペーパーを書くんですけどめちゃ印象に残ってるのは、私見て驚愕して……「東アジア史」って授業なんですけど、ちょっと一時も日本から離れない時期があってコメントペーパーに中国に戻してくれないかなってぼろって書いたら「中国史が好きな澤田さんですよ」って言ってきて私はこれがめちゃめちゃ衝撃的に覚えて。優しいですよ。めちゃめちゃ喋りが優しくて結構東アジア史の授業の中でも噛み砕いて説明しないと伝わらない文化の違いとかっていうのを私たちにめちゃめちゃ優しく教えてくれて、声色も優しいし話し方も優くて、すごく覚えてます。

**湯山** 図書館のデータベースとかすごい何度も説明してくれたよね。多方面に研究仲間がいて、顔が広い先生なんだなあって思いました。

**澤田** あと、須川先生！須川先生はアニメのイメージ。

**三浦** そうですね、須川先生とは結構仲が良くて、脱出ゲームをテーマにしてスタジオしてますよ。あと辻先生ともコラボして地域に根差したプロジェクトを進めてますよ。

**湯山** 須川先生のプロパガンダの話結構覚えてて、ディズニーが女性のステレオタイプをつくったとか、プロパガンダにつかわれた、というような話が衝撃的で印象に残ってますね。

**木村** 刺激がすごすぎて、自分には絶対ないものを出してくるから、ほんとにすごい。樽沼先生とか特にありえないくらいのアンテナというか感性を授けてもらって、歩いているだけで楽しい世界になりました。

**森田** 卒論ってゴールじゃなくて、むしろそこから始まるっていうのを先生方もおっしゃっていて。私は職種柄、世の中に自分がつくったものを提出していくことにはなりますが、いつか卒論がスタートだったと心から思える日がくるといいな。

**入山** 4年間の授業や卒業研究を通してどうでしたか？

**森田** 吉原先生は「社会学というのは社会に出てからが本当に役に立つ学問」だと仰っていて。「大学生」という保証された身分ではまだ社会との関わりってすごく限定的で、学生ではなくなった時に社会とどう繋がっていくのかということがこの大学での学びの集大成になるわけだから、「卒論をゴールだと思わずに」と

# 1 期生卒業記念 都市社会共生学科 Interview ~Long ver~

教員	三浦 倫平 先生
卒業生	並木さん、澤田さん、湯山さん、柴崎さん、 木村さん、森田さん
学生インタビュアー	入山さん

いう吉原先生、齊藤先生の言葉が刺さりました。4年生の最後は、卒論は個人戦かなと思っていたけれど、学科の友達とか先生とかが本当に心の支えだったし、多くのアドバイスを受けて完成させて発表会を迎えることができたので、関わってくれた全ての人に感謝を伝えたいです。

**木村** 卒論があったからこそ、たくさん本を読んだり考えたりするきっかけになって、それが思考の軸みたいになったので大事だなと思いました。人間に関わることを勉強できたおかげで、日常生活に非常に密接になっているのがすごくいいなと思いました。

**湯山** 卒論がまだ頭の中ぐるぐるしてます（笑）

**森田** 目の前にあることに対して頑張っ乗り越えることはいつになっても大事なことかなと。ちょっとなんか斜に構えてまあ適当でいいよっていうのも勿論分かるんだけど、嫌でも面倒でもとりあえず自分の納得いくまでやれる人はかっこいいよね。そしてそういう人は自分がいかにまわりから援助してもらっているかを自覚していると思う。卒論っていうのは私たちに用意された、そのひとつのいい機会であって。なりたい自分に近づくための手段として学科も先生も学校も全部自分が使ってやるっていう気持ちでいけば、やらなきゃいけないことに対しての向き合い方も変わってくるかなと思います。

**澤田** 4年間で200万かけて通ってるんだからね！お金払っている分、半泣きになりながら書き上げた卒論のこの過程は自信になったし、仕事してる時にもそのメンタルみたいところはちょっと通用するかなって思っているの。みなさんも200万円の集大成として頑張ってください。

**木村** 大学に行ける層にいる私たちこれから社会を動かす側の多職種に就いたり立場に行ったりする人間なんだから、より広い視野をもちろん勉強しなきゃいけないし、それをまとめるっていう作業は大学の最後にしないと軸がブレブレのまま社会を動かすことになっちゃう。だから、卒論はそうやって今まで学んできたことを、自分なりに論理を立ててこれから社会を動かす時の軸にするための過程として考えたらすごいんじゃないかなって、最近自分では思っていますね。

**湯山** これからはもっと記者として日本や世界に「こういう問題があるんですよ！」っていうのって伝えるために、卒論っていうのは踏み台っていうかまず学科の人に何が起きていて、どんな歴史が繰り返されて、みたいな、そんな論理を立てるのがまず卒論で練習になる。それでもっと広い範囲に自分のやってきたことを提供するための土台になってるのかなって私は執筆して思いました。

**三浦** それぞれが、卒論に自分なりの意味を見出してもらえればいいなと思います。

★関係の皆さま、ご協力いただきまして、有難うございました！